

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	2-2-3	事業名	ベンチャー支援事業				
担当	経済局産業振興部産業振興課新産業担当係 藤原 薫 211 - 2379						
全体計画							
事業内容	ベンチャー支援事業 優れたビジネスモデルや大学・研究機関等の優れた研究成果の事業化を図るベンチャー企業を創出・育成していくために、市内において経営等の専門的なノウハウを十分有し、札幌の新産業創出に熱意のある民間の企業支援者等をメンバーとした支援協議会を組織し、起業家の円滑な創業・新事業展開を支援する。また、ベンチャー支援事業の卒業生間のネットワーク構築などフォローアップ事業も行う。 スキルエンジェル制度の活用・人材発掘業務 札幌のバイオを中心としたベンチャー企業の特徴として、素晴らしい素材、研究者を有するものの、経営力のある人材がいないこと、販路・マーケティング能力に欠けることなどの課題を抱えている企業が多い。ベンチャー支援事業と並行し、様々なステージにおける人的支援を充実させることで、その課題の解決を図る。本市単独事業ではなく、北海道経済産業局の登録人材も活用する。			<年度別の事業内容>			
				平成19年度 ベンチャー支援事業として新規案件3件、継続案件4件に対して、総合的な経営支援を行った。 平成20年度～平成22年度 引き続きベンチャー支援事業を行うとともにスキルエンジェル制度による人的支援を行う。			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	ベンチャー支援事業 新規案件3件、継続案件4件につき、新技術・新商品や大学・研究機関等の優れた研究成果の事業化を図る個人・ベンチャー企業を創出・育成していくために、起業家の円滑な創業・事業展開を支援した。具体的には下記のとおり。 ・環境に優しく、かつ効率的な融雪システムサービスを提供するエコ融雪リモコンシステム事業。 ・北海道の良質な商品を、独自の販促方法により道外の消費者に販売する通販モデル事業。 ・特別仕様の厨房車にて、本格的な西洋料理を提供するケータリングサービス事業。 ・IT・医療等の分野で活用されるクリーンルームについて、さらに極限まで高洗浄化された商品を提供する事業。 ・主に地域中小企業を対象に、インターネットを通じて新たな商流を開拓するインターネットマーケティング事業。 ・主婦ネットワークによる、北海道食材を使った加工品の企画開発・販売事業。 ・北海道大学発の技術「高強度ゲル」の実用化と、その応用開発事業			ベンチャー支援事業 平成19年度からの継続案件3件につき、引き続き支援するとともに、新たに3件程度のベンチャー企業・個人に支援を行う。 スキルエンジェル制度の活用・人材発掘業務 経営ノウハウを有する人材を活用して、ベンチャー企業の活動を支援するため、北海道経済産業局の登録人材を活用した人的支援を行うとともに、新たな支援人材も発掘する。			
達成目標の状況							
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)	
支援対象件数(累計)	12社	16社	19社	22社	26社	26社	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 公募により支援対象者を広く呼びかけるとともに、有識者で構成する支援メンバーによる意見を踏まえてベンチャー支援事業の支援対象者を選定している。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力]有識者で構成する支援メンバーより企業選定・支援について連携をとっている [情報協力]大学・関係団体より有望なベンチャー企業・個人について情報提供をうけている [その他の協力]</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 個別に大学・関係機関に情報を提供し、公募により支援対象者を広く呼びかけることにより、企業がより参加しやすい環境を作っている。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	2-2-3		事業名	ベンチャー支援事業		
評価(成果)				課題		
札幌で芽を出しつつある有望なベンチャー企業等に対して、経営ノウハウ等を提供することにより、円滑に事業を展開させるなど、その成長を促すことが出来た。				本事業において事業化が達成できた案件について、事業終了後もスキルエンジェルなど他の支援制度などを有効に活用させ、その成長を軌道にのせることが必要。		
今後の事業の予定・方向						
成長可能なベンチャー企業を多く育てていくため、スキルエンジェル制度などを活用しながら、さらに多くのベンチャー企業に支援を実施していくとともに、事業終了後のフォローアップも行っていく。						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	44,081	49,973	49,973	49,973	194,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
一般財源	44,081	49,973	49,973	49,973	194,000	
予算	事業費	44,081	35,613	-	-	79,694
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
	その他	0	0			0
一般財源	44,081	35,613			79,694	
実績	事業費	41,249	-	-	-	41,249
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
	その他	0				0
一般財源	41,249				41,249	
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				39.6%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度] 継続案件1件につき、当初より早く自立することが可能となり、本事業の支援を必要をしなくなったことにより決算が当初予算に比べ減額となった。						
[20年度] 他事業との連携を図ることで、事業費を抑制することが可能となったため、当初計画に比べ減額となった。						